

## カンボディアの「ことわざ」の研究

— ជួនាទី ព្រះសុភាសិត ខ្មែរ 』 的 分 野 別 分 類 —

岡 野 直 喜

### 1. はじめに

本稿で注目したいのは、「カンボディアのことわざ」である。そのため ជួនាទី [チュンナ] (著者) の『ព្រះសុភាសិត ខ្មែរ』(カンボディアことわざ集) の一つひとつの「ことわざ」の表現意図を考えながら、それらがどんな分野 (ジャンル) に注目して表現しているかを分類する。一般的に「ことわざ」は、「古くから言い伝えられた教訓、風刺などの短い句」などと多くの辞書では書かれている。カンボディア語では「សុភាសិត」にあたり、辞典 (『カンボディア辞典』 坂本恭章 1988年6月) では「ことわざ、格言」と訳されている。ここではその「សុភាសិត」に注目して、一つひとつ分類し、分析して全体を概括する。

### 2. 研究方法および手順

本稿ではカンボディアの「ことわざ集」である『ព្រះសុភាសិត ខ្មែរ』の「សុភាសិត」の一つひとつが、どんな分野 (ジャンル) に注目して表現されているかを分類、分析し、「សុភាសិត」の表現の意味、要素を考察する。

前回、1, 119の「ことわざ」を対象にしたが、今回、残りの461の翻訳を行い、1, 580すべての「ことわざ」を研究対象にし、『ព្រះសុភាសិត ខ្មែរ』のすべての「សុភាសិត」の全容を明らかにすることが出来た。また、前回の分類、分析結果を再検討し、一つの分類で出現数の多いものを、さらに細かい意味の把握のために分類内容を細分した。また、出現数の少ないものや意味の重なり大きい分類内容は統合して、意味の概括のため分類内容を整理し、新たな分類内容に再編した。

### 3. 前回の分類方法と内容

今回の分類、分析にあたって、前回の分類の方法と内容やその分類、分析結果を再検討し、より細かな表現意図の把握ができるように、新たな分類内容に整理し、再編する。そのために前回の分類、分析を振り返りながら、分類の方法や内容、そして、分析結果の数的比較などを、前回の手順に沿って全体を概観する。

### 3. 1. 前回の大きな分類の方法と内容

前回の分類では、一つひとつのことわざの訳から、その表現意図を考えながら分類を行った。そのため、「ことわざ」の意味内容のすべてを集成した分類内容が必要になり、意味の世界を網羅した分類のために、類語辞典（大野晋「類語新辞典」角川書店 1981年）を参考にした。

まず大きな分類を次のように考えた。①私たちを取り巻く外的事物・現象、②内的な精神世界やそれに伴う人間の振るまい、③人間の行為により作られた文化、とした。

大きな分類の内容をまとめると次のようになる。

- ①自然は我々を取り巻く自然界として、人間の及ばない自然現象や人間が手を加えていない生物、ものの本来の性質や状態、それによる運動や変化を表す。人間の本能や生理も自然の現象と考えた。
- ②人事は主に人間に関わる内的な世界であり、精神活動を指す。そして感覚や思考などの活動やそれらから生まれる動作、態度、表情や老い・若さ、地位・身分などに関するもの、また個人の体格、容姿などの性向も人間生活に関わる人事とした。
- ③文化は自然の上に、人間の営みにより作り上げられた世界、社会的な人間の活動により積み上げられた地域、社会、政治、学問・学術、言葉・言語や、庶民の楽しみである芸能、娯楽や衣・食などを考えた。

### 3. 2. 前回の小さな分類の方法と内容および項目立て

上述の大きな分類の視点に立って、その下位の小さな分類とその項目を考えた。小さい分類は「ことわざ」の表現意図を把握するため、限られたグループに分けることにより、整理できる。そして、小さな分類の下位には、その分類の意味内容を網羅できる項目を配置した。ここでの項目立ては、小さい分類の意味の違いを具体的、頭の中で比較対照するための意味の項目である。類語新辞典では10の細かい項目を立ててあったが、ここでの分類は「[срмѡнн]」の概括である。そのため小分類の境界を越えない範囲で類縁的で、重なりが大きいものを整理し、5つの項目にした。

表1 ことわざ表現のジャンル別項目

大分類	小分類	項 目				
自 然	自然	天文	気象	生理	植物	動物
	性状	位置	形状	数量	時間	価値
	変動	移動	変形	増減	経過	出没
人 事	行動	動作	表情	労役	寝食	生産
	心情	感覚	思考	栄辱	愛憎	悲喜
	人物	老若	親族	地位	職業	神仏
	性向	体格	容貌	態度	性格	心境
文 化	社会	地域	統治	習俗	社交	人倫
	学芸	学術	論理	言語	芸能	娯楽
	物品	物質	食品	衣料	機械	薬品

### 3. 3. 前回の分類結果および分析資料

第1の特徴は、表2でも明らかのように、行動、心情、人物や性向などの人事の表現が537で、全体の51.2%と大きな比重を占めていることである。その中では心情を表現しているものが169で、全ことわざ数の15.1%を占める。続いて行動が163で14.6%、性向が137で12.2%と続き、人物へと続く。特に、出現数の多い行動

と心情の二つの小さい分類を合計すると332になり、全ことわざ数の29.6%と3割近くを占めることになる。

第2の特徴は、文化に関する表現が314で、全体の28.1%であり、その中でも特に学芸と社会が合わせて253と全ことわざの22.6%となる点である。学芸と社会は共に126と127で、出現率でもそれぞれ11.3%と大きな割合である。この二つの小さい分類は、文化の中では表現の大きなテーマである。特徴的な表現内容として学芸は学者・識者の資格について、社会の統治については国王の政などの記述が見られた。また学術に関する表現は、いろいろの方向から学問の大切さを伝えようとし、娯楽では、賭け事の危険性を伝えようとするものがあつた。

第3の特徴は、小分類の自然についての出現数が、204で全体の18.2%にのぼり、小さい分類の中では一番大きな割合を占めている点である。その中の動物、植物の項目は、個別の動植物を使って、さまざまなテーマを表現したり、比喩を使ったりして、性質や特性を浮かび上がらせ、印象づけるものも多い。また生理も人間を自然の中でとらえて、表現しているものもあつた。

4. 今回の新たな「カンボディアことわざ集」の分析、分類

前回、1,119の「ことわざ」を抽出したが、これは全「សុភាសិត」(ことわざ)の70.8%になる。今回の分類、分析にあたり、残りの461の「ことわざ」を新たに加え、「ことわざ」数が1,580になった。これはជំនួញ 的『ប្រមូល សុភាសិត ខ្មែរ』の全てにあたる。そして、これらのすべてを対象にすることでជំនួញ 的「សុភាសិត」の世界全体を見ることが出来る。そのために、まず、前回、1,119の分類の結果を再検討する中で、より表現意図の細かい把握が出来るように、分類内容も整理し、再編した。

4. 1. 今回の新たな分類内容(前回の分類、分析結果の再検討)

自然は、前回、自然、性状、変動の3つの小さい分類に分けたが、分類結果を分析、再検討する中で人間を自然の存在として表現している「ことわざ」に注目し、生や死、生理、欲望などを中心に4つに整理した。

人事では、行動と心情が大きな割合である。そのため新しい分類では、人間の内的な精神活動を感情の働き、心情、知の働き、考え、忍耐、行動、努力、行為などの意味を引き出し、整理した。また、その中に男女を意識させるものも含まれていた点に注目して、男性しか使えないものや、女性しか使えないものを「男性が女性に対して」と「女性が男性に対して」のそれぞれ2分類を加えた。

表2 小分類でのことわざの割合

大分類	小分類	出現数	割合
自然	自然	204	18.2%
	性状	19	1.7%
	変動	9	0.8%
人事	行動	163	14.6%
	心情	169	15.1%
	人物	104	9.3%
	性向	137	12.2%
文化	社会	127	11.3%
	学芸	126	11.3%
	物品	61	5.5%

(2000年2月)

文化では、社会、学芸、物品といった小さい分類に分けたが、出現数の多い社会と学芸を中心にさらに細分して、新たに12の分類に整理した。特に、「ことわざ」の庶民性からは離れるが、政治や統治など王の政としての内容も見られたため、新しく国王の分類内容を加えた。

以上の結果、前回の自然3、人事4、文化3を今回、自然4、人事19、文化12の新しい35の分類内容に再編した。次に新たな分類内容の再編の視点を示す。

- 1) 人事の分類を細分化して、意味内容が把握しやすいようにした。
  - 2) 自然の事象・現象のほか人間の本能なども自然の中で整理した。
  - 3) 意味内容から女性に対して男性しか使えないものを抽出した。
  - 4) 3)の逆で女性しか使えないものも抽出した。
  - 5) 文化の社会と学芸を中心に細分した。
  - 6) 文化の中で国王の政治的手腕や行動を表現したものを引き出した。
4. 2. 今回の新たな具体的分類内容（前回の分類、分析を踏まえて新たな分類の再編）
4. 2. 1. 自然についての新たな分類

小分類の自然は、その中の動物の項目の中に人間も位置づけ、動物同様、人の生・死を自然の事象としてとらえ、新しい分類内容とした。生理の項目も自然な欲望としての性欲や食欲をあげた。人物の分類の老若の項目を自然的存在と考え、人生、人の生死、老い・若さとして自然の分類に入れ、さらに健康、病気、身体なども人間の生・死と同様に自然な事象とした。また、人との関係性の薄い性状、変動は自然の現象、風土と大きく包め、植物の状態や農業も自然の中でとらえた。

#### 4. 2. 2. 人事についての新たな分類

人事の中で、最も多かった心情の感覚、愛憎、悲喜の項目を直接的な心の動きとして、新しく感情の働き、心情として、一つの分類内容にまとめ、思考の項目は人の知的活動とし、新しく、知の働き、考え、そして忍耐とし、栄辱の項目は行動の表情の項目と名誉や恥による表情などの外的変化との関係性を考え、新たに成功・失敗、名誉、成果といった行動の顛末などの表現内容として統合した。また、様々な感情の機微を表すものも多し点を配慮し、心情の愛情、悲喜といった項目を男女関係に限って、恋愛、男女関係、の新たな内容を立てた。さらに、明らかに女性しか使えないものや男性しか使えないものなど、男女の性を意識させるものに注目して、それぞれ新たな分類内容も起こした。

人事の中で2番目に多かった小さい分類の行動は、まず、動作、表情の項目を態度中心に、義務や忠誠心といった具体的内容を加えて、一つにまとめ、動作は努力、行為などと外的な活動という共通部分で一つに括った。その上で、行動の労役、生産、職業の項目は、人間を中心に個人の力や能力に関するもの、と仕事自体とに分けて整理した。

3番目に多かった分類の性向は、よく取り上げられる表現内容である性格の項目だけを取り出し、一つの表現内容にした。さらに、境遇、運命、宿命など、個人の努力では変え

ることが出来ない内容を、新たな分類内容にした。

4番目に多かった小さい分類の人物は、まず、神仏の項目を生活の中での仏教との関わりから徳、恩、道理、道、善と悪、価値観など、広く社会規範とされている内容にまとめた。そして、親族の項目は、人間関係の単位としての家族、家庭、夫婦、とよく表現されている個々のつながりである親と子、友人、親戚とに分けて、新たな分類内容とし、結婚についての表現もあったことを踏まえ、

表3 新しい分類

夫婦とは別に新しく起こした。また、人間関係を作るための会話や話し合いは、学芸の言語の項目と一緒にして会話、言語、話し合いとして新たな分類内容にした。さらに地位の項目は、社会的背景も考え階級、身分などを加えて新しい分類内容として一つに括った。

4. 2. 3. 文化についての新たな分類

最も多かったのは、小さい分類の社会である。その中の統治の項目は歴史的背景や政治的事情も配慮し、国家的なものや政治や独立の内容を新たに考え、その上で社会的な活動である経済、商売も別に整理した。そして、戦争や平和も現代的課題として新たに加え、新しい視点として国王についての記述が見られた点に注目して、「国王」の内容も新たに起こした。また人倫の項目内容に、人事の分類である人物の神仏の内容を加え、新しく、宗教、仏法、お坊さん（僧侶）など宗教的背景を、一つの表現内容に整理した。

2番目に多かった小さい分類の学芸は、芸能の項目を広く芸術、文化にした。そして文化的で知的活動としての学術の項目は、学問、学者、知識・知恵といった表現内容の一つにし、また、前回の分類で説教や教訓が見られた点に注目し、教育、教師の内容も新たに立てた。娯楽の項目内容は、すでに人事に財産、博打、

番号	大分類	内 容
1	自然	人生・人の生死・老い・若さ
2	自然	生理・性欲・感覚・欲望・食欲
3	自然	健康・身体・病気
4	自然	自然・風土・現象・農業
5	人事	感情の働き、心情
6	人事	知の働き、考え、忍耐
7	人事	性格
8	人事	態度、義務、忠誠心
9	人事	徳、恩、道理、道、善と悪、価値
10	人事	行動、努力、行為
11	人事	会話、言語、言葉、話し合い
12	人事	仕事(働くこと)
13	人事	能力、働くこと
14	人事	恋愛、男女関係
15	人事	結婚
16	人事	(男性から)女性へ(恋人、妻)
17	人事	(女性から)男性へ(恋人、夫)
18	人事	家族・家庭、夫婦
19	人事	境遇・運命・宿命
20	人事	成功・失敗、名誉、成果
21	人事	人間とその類型、地位、階級、身分
22	人事	人間関係(親と子、友人、親戚)
23	人事	財産(金持ち、貧乏)、博打、お金
24	文化	生活習慣(衣食住)
25	文化	医学
26	文化	芸術・文化
27	文化	学問・学者・知識・知恵
28	文化	教育・教師
29	文化	宗教・仏法・お坊さん
30	文化	趣味・娯楽・遊び
31	文化	国家・政治・独立・世界
32	文化	経済・社会・法律・商売
33	文化	戦争・平和・軍隊
34	文化	国王
35	文化	抽象的な概念・哲理

お金という内容を新たに起こしているので、文化ではそれ以外の趣味、娯楽、遊びを入れ、別々に整理した。

3番目の分類の物品については、食品、衣料の項目に住居を加えて文化的視点から生活習慣としての衣・食・住として新たに起こした。

#### 4. 3. 新たな分類内容による分類結果および資料

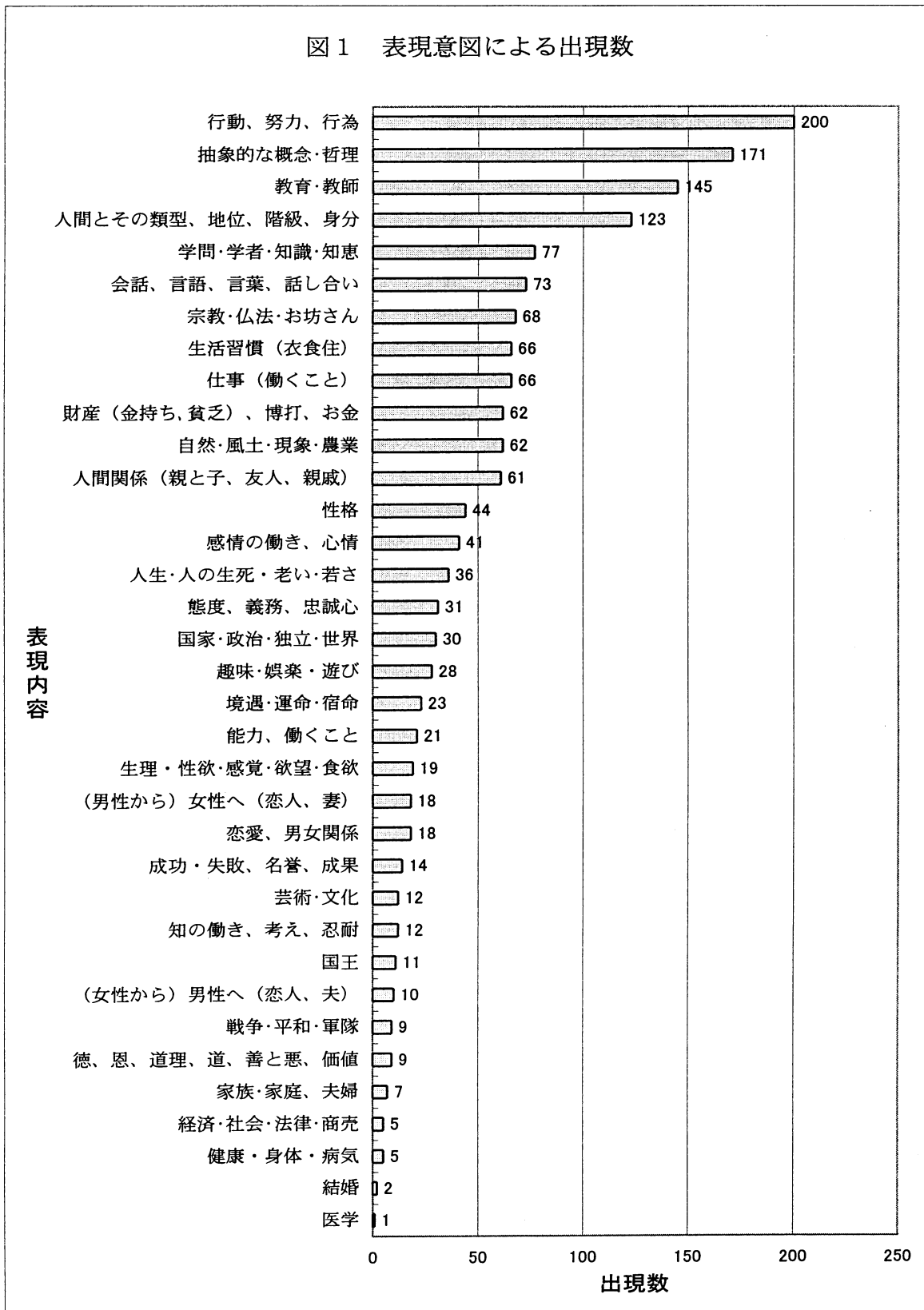
今回の新たな分類は、表3をカンボディア語に訳し、二人のカンボディアの学生に依頼し、カンボディア語の「ព្រឹត្តិ» の一つひとつから分類を行なった。分類の出現数・率は表4に示す。また、各分類の数量的な差異は図1に示した。

表4 新しい分類による出現数と出現率

番号	大分類	内 容	出現数	出現率
1	自然	人生・人の生死・老い・若さ	36	2.28%
2	自然	生理・性欲・感覚・欲望・食欲	19	1.20%
3	自然	健康・身体・病気	5	0.32%
4	自然	自然・風土・現象・農業	62	3.92%
5	人事	感情の働き、心情	41	2.59%
6	人事	知の働き、考え、忍耐	12	0.76%
7	人事	性格	44	2.78%
8	人事	態度、義務、忠誠心	31	1.96%
9	人事	徳、恩、道理、道、善と悪、価値	9	0.57%
10	人事	行動、努力、行為	200	12.66%
11	人事	会話、言語、言葉、話し合い	73	4.62%
12	人事	仕事（働くこと）	66	4.18%
13	人事	能力、働くこと	21	1.33%
14	人事	恋愛、男女関係	18	1.14%
15	人事	結婚	2	0.13%
16	人事	（男性から）女性へ（恋人、妻）	18	1.14%
17	人事	（女性から）男性へ（恋人、夫）	10	0.63%
18	人事	家族・家庭、夫婦	7	0.44%
19	人事	境遇・運命・宿命	23	1.46%
20	人事	成功・失敗、名誉、成果	14	0.89%
21	人事	人間とその類型、地位、階級、身分	123	7.78%
22	人事	人間関係（親と子、友人、親戚）	61	3.86%
23	人事	財産（金持ち、貧乏）、博打、お金	62	3.92%
24	文化	生活習慣（衣食住）	66	4.18%
25	文化	医学	1	0.06%
26	文化	芸術・文化	12	0.76%
27	文化	学問・学者・知識・知恵	77	4.87%
28	文化	教育・教師	145	9.18%
29	文化	宗教・仏法・お坊さん	68	4.30%
30	文化	趣味・娯楽・遊び	28	1.77%
31	文化	国家・政治・独立・世界	30	1.90%
32	文化	経済・社会・法律・商売	5	0.32%
33	文化	戦争・平和・軍隊	9	0.57%
34	文化	国王	11	0.70%
35	文化	抽象的な概念・哲理	171	10.82%

4. 4. 分類内容による出現数

図1 表現意図による出現数



## 5. 前回と今回の二つの分類、分析結果の比較、検討

### 5. 1. 前回のことわざ(2000年2月)を対象にした分類、分析

表5では人事の割合が51.2%と半数を超えている。内訳は、心情169で15.1%、行動163で14.6%と最も多く、続いて性向の12.2%となる。

次に多かった文化は、314で28%である。内訳は社会が127で全体の11.3%、学芸についての表現も126で11.3%と大きな割合になっている。

物品については61で、全体の5.5%にとどまっている。また、社会と学芸だけに注目して2つの小分類を加えると263の出現数を占め、文化の分類の中だけに限れば、80.6%で、8割近くになり、全「ことわざ」数でも、22.6%と大きな割合になっている。

表5 大きな分類の出現率

大きな分類	出現数	出現率
自然	232	20.73%
人事	573	51.21%
文化	314	28.06%

(2000年2月)

### 5. 2. 今回の全「ことわざ」を対象にした新たな分類、分析

前回の分類、分析を踏まえて、新たな分類内容をもとに一つひとつの「နုကณฺ์ณิ» を分類し、分析した。その結果、人事は出現数が835で全体の52.85%になり、前回同様、5割を超える大きな割合となる。文化は出現数が309増えて、623となり、出現率でも11.37%増加して39.43%となった。これは前回、文化の学芸と社会の項目を中心に、知的な活動、文化・芸術的内容、学問・知識、教師・教育的内容、宗教・仏教的背景、国家、政治の関わり、経済、社会、歴史上の戦争・平和、軍や国王、など、人間を社会的な面や文化面で大きくとらえ、12の具体的な表現内容に細かく分けたことによる。

また、学芸の中の論理、社会の人倫、そして人事の内容に重なり、直接的な表現でなく、言い含めたりするものを抽象的な概念・哲理として、文化の表現内容に新たに加えた。この抽象的な概念・哲理など、ものの見方・考え方は171のことわざで表現され、10.82%の割合になった。これも文化の表現内容の割合を増加させた要因である。

一方、自然は110減って、122でとなり、出現率で13.01%減少して、7.72%になった。これは、前回、小さい分類の自然が204で、18.2%と出現率の割合が小さい分類の中では最も大きく、他の性状の1.7%と変動の0.8%との開きが大きい点を検討して、人間の本能、欲望などを自然としてとらえ、出現率の多かった小さい分類の自然を中心に4つの分類内容に整理、縮小したためである。

表6 大きな分類の出現率

大きな分類	出現数	出現率
自然	122	7.72%
人事	835	52.85%
文化	623	39.43%

(2001年2月)

今回の分類結果は、表6で示したが、前回の分類結果の表5でも同様に、人間の生活に近いところで表現されている人事の割合が、半数を超えている。文化に関する表現も4割



近くで、比較的大きな比重である。特に人を育てる教育や教師についての記述が145で9.18%と文化の中では際立っている。

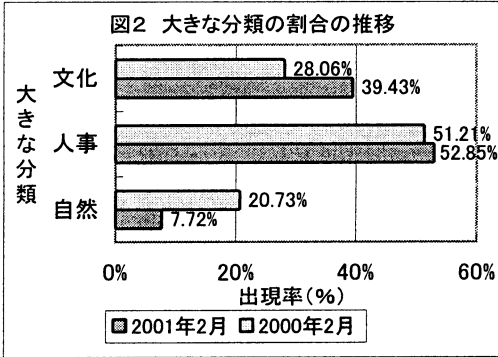
5.3. 前回と今回の大きな分類結果の推移

新たな分類には、最初の分類結果を分析、検討して、分類内容を再編して行った。対象にした「ことわざ」の総数が違うため、出現率で比較し、二つの分類の推移を図2で明らかにした。

大きな分類の割合を比較すると、自然は232から122になって、110減った。割合で見ると20.73%から7.72%に減少した。これは自然な存在としての人間の状態を、広くとらえて、整理したためである。

一方、文化は314から309増加して623になった。割合で見ると、28.08%から約10%増えて、39.43%になった。これは、人間の活動を、文化面、社会的側面から文化の表現内容に入れたためである。

人事は573から835になり、262増加した。割合で見ると、51.21%から52.85%にわずかに増加したが、前回も今回も出現数は、全ことわざの半数を超え、人間の内面を取り上げる表現が多いのは共通している。



6. 今回の全「ことわざ」1,580の分類、分析で出現率の高い分類内容の分析

表7では人事面の行動、努力、行為は200で、全体の12.66%になっている。続いて文化の抽象的な概念・哲理が171で全体の10.82%の割合になっている。文化の教育・教師は145で9.18%である。次に多いのは、人事の人間とその類型、地位、階級、身分の123で全体の7.78%になる。5番目に多いのは文化の学問、学者、知識、知恵で77の表現があり、全体の4.87%になる。4・5番目との出現数の差は46で、割合では、2.91%の開きがある。図1でも明らかなように出現率の多さは4番目までが特に大きな割合になっている。

表7 出現率の高い分類内容

番号	大分類	内 容	出現数	出現率	4つの中の割合
10	人事	行動、努力、行為	200	12.66%	31.30%
21	人事	人間とその類型、地位、階級、身分	123	7.78%	19.25%
28	文化	教育・教師	145	9.18%	22.69%
35	文化	抽象的な概念・哲理	171	10.82%	26.76%

(2001年2月)

この『ဗြဟ္မဗုဒ္ဓ ဗုဒ္ဓကဏ္ဍိတ ဝိသုဒ္ဓိ』の「ဗုဒ္ဓကဏ္ဍိတ」は人間の行動や努力や行為など、外的な行為などを多く表現している。一方では、直接的ではないが、内的な世界、ものの見方や考え方など

概念や生き方など広く人々の内面に迫る表現も多く、僧侶である編集者の意図が見える。そして、学ぶことの重要性や教育にたずさわる人の資質や条件を説くものも大きな比重を占めている。人間の社会的な関係を個々の能力やタイプで言い含める表現も大きなテーマになっている。これらの出現率の高い4つの表現の総数は639で、全ことわざ数の40.44%にわたる。

## 7. おわりに（「សុភាសិត」の要素と今後の課題）

本稿では、ជួនណាត 編集した『ប្រមូល សុភាសិត ខ្មែរ』の「សុភាសិត」が何を意味しているのかを、一つひとつの表現の分類、分析から始めた。分析の手順として、最初に定義や基準を明確にする方法も一般的だが、明確な定義は保留して、ជួនណាត が収集、編集した『ប្រមូល សុភាសិត ខ្មែរ』の「ことわざ」である「សុភាសិត」がどのような意味で全体をとらえているか、一つひとつの「សុភាសិត」の意味を考えることから始めた。そして、その分析結果を踏まえて、「សុភាសិត」の表現の意味を考察した。

ជួនណាត の「សុភាសិត」は人事など、人間の心情や行動に関わる内容が半数以上にのぼり、人間に密着した庶民的な内容も多い。また、「ことわざ」の庶民性から離れた教育的なものや宗教的な見方、ものの見方、考え方など概念や哲理など、説教のような表現も多いのは、編纂した ជួនណាត が高名な僧侶であることから、理解できる。国王についての表現は、格言や名言と思われるものも含め、11の「ことわざ」が見られた。さらに、はっきり作者が明記されているものは67で全体の4.24%になっていて、名言や金言に近い。

「ことわざ」の要素の一つといわれる比喩は188の「ことわざ」で表現され、全体の11.89%を占めている。これも「សុភាសិត」の大きな特徴であり、要素である。

本稿は ជួនណាត の「សុភាសិត」について考察してきた。現在 U. Sreng Kong の『KHMER—ENGLISH』（1997年7月）の329の「ことわざ集」の翻訳を終え、ជួនណាត のこの『ប្រមូល សុភាសិត ខ្មែរ』との比較、検討を進めている。

## 参考文献

ជួនណាត 『ប្រមូល សុភាសិត ខ្មែរ』 時代不明

U Sreng Kong 『KHMER—ENGLISH (ប្រមូល សុភាសិត ខ្មែរ)』 1997年7月

鈴木荘夫 『言語』25巻 大修館書店 1996年

中村 明 『比喩表現の理論と分析』 国立国語研究所 1997年

鈴木俊彦 『改訂新版 ことわざ名言の泉』 小学館 1997年

大野 晋 『類語新辞典』 角川書店 1981年

木村宣男 『ことわざ学入門』 遊戯社 1997年

浮田三郎 『日本語とビルマ語の諺対象比較研究（1）』 広島大学教育学部研究紀要  
1987年3月

浮田三郎 『日本語と現代ギリシャ語の諺対象比較研究（4）』 広島大学教育学部研究紀要  
1989年